

新基地建設反対名護共同センターニュース

ゲート前の機動隊の横暴、愚かな美ら海の破壊など 「ここで見たことを本土で伝えたい」

全日本民医連の第46次辺野古支援・連帯行動が23日行われ、北海道から九州までの職員50人が参加しました。午前9時、ゲート前で県民とともに150人で抗議の座り込みに参加(写真右)。9時半過ぎ約100人の機動隊員に排除されトラック数十台が基地内に入りましたが、「違法工事は中止せよ。機動隊は本来の仕事に戻れ！」などと抗議のシュプレヒコールを繰り返しました。午前11時から平和丸など抗議船3隻に分乗、大浦湾と辺野古の海からk9護岸やk8護岸付近で現場を視察しました。(写真下)



民医連 延べ約3,500人が連帯行動に参加

全日本民医連の辺野古支援・連帯行動は15年前の2004年に始まりました。当時、新基地計画は沖合案でしたが、全日本民医連は抗議船・平和丸に乗船するなど物心両面からの支援・連帯行動を展開。沖合案を頓挫させる勝利に大きな役割を果たしました。

その後も民医連の連帯行動は毎年3回ほど継続的に展開され、今回で第46次行動となり合計で約3500人も参加者となっています。例年、青年中心の行動で初めて沖繩に来たという参加者も多く、地元に戻ってから沖繩のたたかいの語り部となっています。



全日本民医連が 第46次 辺野古連帯行動

印刷所の社長会が辺野古へ

あかつき印刷(株)や株きかんしなど共産党や労組・民主団体の機関紙誌や宣伝媒体の印刷・デザイン会社で構成する日本印刷技術研究所(技研センター)の社長会15人の一行が23~25日に沖繩県を訪問。沖繩の経済界やメディア代表の講演を受け、たたかいの現場を視察しました。24日は辺野古浜のテント前で共同センタースタッフからレクチャーを受け、抗議船・平和丸に乗船、美ら海や埋め立て工事現場を視察しました。同社長会から共同センターと平和丸基金へカンパが寄せられました。



名護市平和委員会が「タカラさん囲んで憲法を考える会」

6・1ゲート前県民大行動へ

定例の第1土曜日のゲート前県民大行動が6月1日に開かれます。「違法な土砂投入を止めよ」、「安倍政権は沖繩県民の民意に従え!」など抗議の声を上げましょう。各地島ぐるみ会議からバスが出ます。誘い合って参加しましょう。

日時: 6月1日(土)

午前11時~正午

場所: キャンプ・シュワブゲート前



会終了後、タカラさんは参加者全員と熱く握手を交わし、参院選必勝へ奮闘することを誓い合いました。

国民の役割は政治の監視
名護市平和委員会は21日、名護市内で「高良鉄美さんを囲んで憲法を考える会」を開催、約40人が参加しました。高良さんは「憲法は権力者を縛るもの。主権者である国民の役割は、政治の監視です!」などとアベ9条改憲の危険性や憲法を守ることの重要性をわかりやすく話しました。